

V85.72

岸田文雄首相は、昨年末に閣議決定した「国家安全保障戦略」と安保3文書を踏まえ、「防衛力の抜本的強化」に全力で取り組むと表明しています（1日の年頭所感）。3文書は、歴代政府が抱いてきた「専守防衛」の原則を投げ捨てて、「敵基地攻撃能力」の保有に初めて踏み込むなど、戦後の安保政策を大転換し、空前の軍拡と「戦争国家づくり」を推し進めようとするものです。したした危険な動きを許さず、憲法と平和、暮らしを守り抜くため、国民的規模でたたかいを広げる」ことが重要です。

主張

安保政策の大転換

れ国なく女好で、ある松組みを贈
た」と指摘しています。その上で、「
今回の戦略は「その枠組みに基づ
き、戦後の我が国の安全保障政策
を実践面から大きく転換するもの
である」と西の強調しています。
「実践面からの大転換」とはど
ういう意味か。

危険な米戦略追従から脱却を

めて踏み込むなど、戦後の安保政策を大幅改訂し、空前の軍拡と「戦争国家づくり」を推し進めたといふべきです。したした危険な動きを許さず、憲法と平和、暮らしを守り抜くため、国民的規模でたかへゆくのが重要です。

しかし、現実には「敵基地攻撃能

そのため、他国領域で樂團的宣傳

一九、戰艦指揮のタクティク・六

米軍支援で敵基地攻撃

新たな国家安全保障戦略は「平和安全法制（＝安保法制）の制定等により、安全保障上の事態に切

危険な米戦略追従から脱却を

「この『裏跡面』か
の大転換」はどこか
ら来たのか。

イハの導入を進めておこなっています。今回の敵基地攻撃能力の保有決定は、米国の軍事戦略に付き従

れ固なく対応で、それが組みを踏み
た」と指摘しています。その上で「
今回の戦略は「その枠組みに基づ
き…戦後の我が国の安全保障政策
を実践面から大きく転換するもの
である」と自ら強調しています。
「実践面からの大転換」とはい
うところ意味か。

力は保有しない」といふ被災の政府方針が制約になりました。政府は立候から、安保法適用に基づき集団的自衛権の行使として敵基地攻撃を行ひました。「法理上はあり得る」(2004年6月1日、衆院安保法特別委員会、答辯)。首相(小淵)とこう見解を示していふのが、今回、敵基地攻撃権行使に対する「ホルムズ海峡における機雷掃除」か念頭に「ははなこ」(同)としておした。

力の運用を打ち出した上で、中衛隊は集団的自衛権の行使として米軍を支援するため相手国領域ミニサイル攻撃などを実戦化なし

日本を危険にさらす道
配備を強化しなければ。

そのため、他国領域で樂團的宣傳

一九、戰艦指揮のタクティク・六

す。